

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200867		
法人名	有限会社 ケアセンターみやこじま		
事業所名	グループホーム ふるる	ユニット名	ひまわりユニット
所在地	宮崎県都城市安久町5596番地1		
自己評価作成日	平成28年12月29日	評価結果市町村受理日	平成29年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanitraue&JiyosyoCd=4570200867-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

見晴らしが良くのどかな場所に施設があり、のんびりとした空間の中で利用者様が元気に過ごされています。利用者様一人一人と向き合い、利用者様の思い、希望に沿ったケアが出来ればとスタッフ全員協力しながら毎日の業務に取り組んでいます。その為にも全職員が個々のスキルアップにつながる様に、研修や勉強会に積極的に参加して利用者様への支援に繋がらばと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が「今日一日楽しかった」と思えるように、職員は2ユニット合同のレクリエーションやアイデアを出し合い、四季折々の飾りつけや模擬店での買い物等を積極的に行い、喜びのある環境の中で利用者の生きがいを支援している。安心、安全な生活を心がけたケアに努め、常に笑顔や穏やかな表情、言葉かけで利用者として接している。全職員で専門的な技術や正しい知識について取り組み、利用者一人ひとりの状況や希望に合わせたケアを提供できるよう、良い人間関係を保ちチームワークを発揮している。家族が来訪しやすいように面会室を設置したり、ホーム便りを年に4回発行するなど、家族との関係を構築、維持している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の目に付く場所に理念を掲示し、実践につなげる努力をしています。理念: 温もりと安らぎのある生活を支援します。	ホームの随所に利用者の生活を支援する理念を掲げている。職員は、笑顔や穏やかな表情、言葉かけで利用者へ接し、管理者は職員会議を理念の真意について深く考える場として位置付け、理念にそぐわない時は注意を促している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	行事等を活用して地域のボランティアの方の受け入れ等を積極的に行っています。地区に加入し地域の一人として交流しています。	敬老会、地域の保育園、中学校、ボランティアの受け入れを積極的に行い、地域の集会の場を通じてホームを紹介し、協力を得ている。散歩時には、地域の人と挨拶や会話をし、農作物をもらうこともある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館長より協力を頂き、地域の集会の場を通し当施設の紹介、認知症の方の理解を得られるように努力しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月1回のミーティングを用い推進会議での協議内容、指摘事項などを報告し改善に繋げるよう努力しています。	時宜にかなったテーマを議題に対策を協議したり、ホームの現状を報告するなど有効な情報交換の場となっている。議事録は、家族等が閲覧できるように玄関に備えている。職員会議で協議内容を報告し、真意が伝わるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険制度の改定事項、利用者様、家族等の処遇、その他について事業所側で判断がつきにくい事などを速やかに相談してアドバイスをもらうなどの連携を図っています。	相談事や意見を聞きたい時は、いつでも市の担当者へ電話や訪問をし、積極的に関係性を持つようになっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内には、玄関(夜間のみ施錠)以外は施錠せず多動、徘徊のある利用者様には見守り重視のケアを行っています。	内・外部の研修や勉強会で身体拘束の弊害を学び、理解を深め、身体拘束のないケアに全職員で取り組んでいる。玄関施錠については、見守りや所在の確認等に努め、施錠をしないで利用者が圧迫感を感じない暮らしができるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待行為が出ないように、職員全員への周知、指導を行い防止に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の講習、研修会への参加の促しを行って理解、周知に努めたいと思っています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、介護支援相談員にて契約時、改定時など責任をもって十分な説明を行いご理解を頂いています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、面会時等、家族の要望や意見などを常に事業主へ報告し運営に反映させています。	家族会を設立し、職員は、家族会や家族の来訪時に気楽に話せる環境づくりを心がけている。また、家族会の運営について、アンケートを配布し、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で、職員の意見、提案等があれば反映できる事項は実行しています。	管理者・2ユニットの主任は、何でも話せる関係を重視している。利用者の生きがい支援としてレクリエーションや四季折々の飾りつけ、模擬店での買い物など、職員の提案をすぐに反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の管理者会議の場にて、代表者へ報告し働く環境を整える努力を行っています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、講習等の参加の促しを行っています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護保険課、居宅介護支援事業所を通じ他事業所の情報を得て、当事業所への取り組みが可能な事項等は取り入れてサービスの質の向上に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談時に本人様、家族と直接会話をさせていただき良く傾聴して安心して頂け、良好な関係作りができる様に努力しています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時に本人様、家族と直接会話をさせていただき良く傾聴して安心して頂け、良好な関係作りができる様に努力しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	先ず当事業所でのサービス内容を家族、本人様へ説明を行い他のサービス内容についても提供出来る事項は対応に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活支援事業所の中で職員、利用者様との位置付けを生活の場としての一員として家事等の手伝いをして頂いて良い関係を保てるように努力している。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所本位ではなく、常に家族との連携をとりながら本人様の生活支援を行っています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	次年度より故郷訪問を取り入れ馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めたい。今のところは関係者へ現状報告のみ行っている。	定期的に知人等が訪れる利用者は限られている。次年度より、利用者のなじみの場所や自宅、地域の行事時等に年2回ほどの故郷訪問を企画し、家族とも相談しながら希望に沿えるように計画している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がコミュニケーションが図り易い環境作りを行っています。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も定期的に他施設、病院等への連携を図り情報提供を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の考えを尊重して本人本位のサービス計画の策定が出来るように努めている。		常に笑顔や穏やかな表情、言葉かけに留意し、寄り添うことで、利用者の思いを察知し、不安解消につなげ、落ち着いて生活することができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様のこれまでの生活歴、生活環境等を十分把握出来るように情報の収集などを行っています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様のこれまでの生活歴、生活環境等を十分把握出来るように情報の収集などを行っています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス会議(月/1回)などを用い、意見交換を行い介護計画の策定に繋がっています。		本人や家族の意向を取り入れ、職員や関係者の意見を反映した利用者本位の介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、見直しは状況に応じて随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録にて記入して職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに反映させています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族がその時々生まれる支援が生じた時に検討し実践出来るように努力しています。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全な生活が出来るように地域の派出所に協力を要請したり、避難訓練では地域の消防団に協力をお願いしています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時より、かかりつけ医との連携を図り医療面での支援を行っています。	本人や家族が希望するかかりつけ医で安心して適切な医療が受けられるよう体制を整えている。受診や通院には職員が同行し、受診結果に関する情報は、電話等で家族に報告し共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に日々のケアを通じ細かい異常時などあれば看護師への報告、相談等を行っています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時など、定期的に病院関係者へ連絡を行い本人様の状況把握に努めています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時の際に、家族へ終末期のあり方施設側の考え方など十分な説明を行い、方針を共有して支援に取り込む様に努めています。	入居時にホームができること、できないことを利用者及び家族に説明している。重度化や終末期の時期に応じ家族への説明を行い、意向を確認し、その経過の中で利用者、家族が望むことを最良の選択とし、関係医療機関との連携に向けて支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED、緊急時の対応法など事業所内研修の実施を行っています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災避難訓練、独自の避難誘導訓練を定期的に行っています。	消防署立ち合いによる隣接の施設との合同避難訓練や地区消防団によるホーム独自の避難訓練を定期的に行っているが、地域住民の協力体制や災害に備えた備品等の準備が不十分である。	災害に備えた備蓄物品や火災・地震、新燃岳噴火などの地域に応じた具体的な想定による訓練を行い、地域住民にホームの災害対策に関する理解を求め、支援を得る体制づくりを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員、利用者様への声掛けの大切さの周知徹底と職員間で確認し合える環境作りを行っています。		常に笑顔や穏やかな表情、言葉かけで利用者と接することを心掛け、イライラさせたり、不安を抱かせないように努めている。トイレでのプライバシーの確保については、家族や職員等で話を進める予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様からの訴え、希望などを常に傾聴し自己決定出来る環境作りを行っています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で、利用者様のペースに合わせて支援していくように努力しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時など、季節感のあるその人らしい身だしなみを支援する様に心掛けています。朝の起床時に必ず洗面台の鏡をみていただき髪をといたりの支援を行っています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際にメニューの紹介を行い、利用者様は食後のお茶碗、コップ等を拭いていただいたりして楽しく食事時間を過ごして頂ける様に配慮を行っています。	主、副菜は本部厨房から届けられている。味噌汁、ご飯はホームで作り、利用者もそれぞれできる範囲で参加している。季節や行事を感じられるような食事で楽しい時間を過ごせるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事や水分摂取量の把握、確認を行い食事制限のある利用者様へは十分な配慮を行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食前、食後など口腔ケアの誘導、支援を確実にしています。			

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個別の排泄支援を夜間、日中を行い、身体状態の変化がみられれば家族との協議を重ね、その人に合わせた排泄支援の取り組みを行っています。	日中、夜間共にトイレでの排せつを支援している。できるだけ、いつまでもトイレで排せつできるように、本人の身体状態に合わせた排せつ方法をその都度話し合い、検討し、支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には軽運動の促しを行い、水分摂取量の調整などをして予防に努めている。排便コントロールの難しい方はかかりつけ医と連携を図り定期薬以外の頓服薬の指示を仰ぎ支援を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、時間帯については本人の意思を尊重して入浴実施を行っている。	くつろいで入浴できるように、季節によってはゆず風呂等で職員が付き添い、会話を楽しみながら本人の意思を尊重した入浴を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活の中で利用者様の表情を観察し、又は訴え等あれば考慮して休息、入床の促しを行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援については、必ず口の中までの服薬支援を行っている。又誤薬、飲み忘れ等が無いように職員間での確認の徹底を行っている。処方箋などを利用して理解に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の片付けや洗濯物干し、たたみなど、生活の中で利用者様が役割をもって生活していただける様に支援を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援は出来ていない状況です。季節をみて散歩を取り入れたの外出と、家族の協力を得て外出、外泊等の支援は行っています。	天候が良い時には畑道を散歩したり、敷地内での外気浴や洗濯物の取り入れなど、利用者の体調や状況に応じて支援している。また、ドライブや家族の協力と理解を得て外出するなど、利用者の希望に沿った支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	ひまわり	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は金銭の所持が可能な利用者様はおられず施設行事の中で金券を作り利用者様へ渡し、嗜好品(主に食べ物等)の買い物をして頂く行事に取り組んでいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様自ら連絡をとられる方はおられず、連絡をして欲しいとの訴えがあった場合には電話などで支援を行い本人にも直接話をして頂いている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い環境作りには常日頃配慮を行っており不快感や不安を持たないように工面している。共用の空間にソファを配置して居心地良く過ごせるように心掛けている。	採光や室温、換気等、利用者が快適に生活できるよう配慮が行き届いている。四季折々の飾りつけや2ユニットの仕切りのカーテンで居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットホールや中央ホールにてソファを配置し他ユニットの利用者様とも一緒に過ごせるよう居場所の工夫を行っている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際は、本人様が馴染みのある使い慣れた物(タンス、テレビ、時計など)を居室に入れて頂くよう配慮を行い、居心地良い環境作りを居室担当者にて常日頃より工夫を行っている。	安心して生活できるように、家族に相談して本人のなじみのある使い慣れた家具や仏壇、テレビ、ぬいぐるみ等を持ち込んでもらっている。また、清潔や安全を保つよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内での手摺りの設置、自立歩行される方への障害物の排除など、安全な環境作りを常日頃より行っている。			